

<S-5> *Plesiomonas shigelloides* の産生する GroEL シャペロンタンパク質について

○津川 仁, 大川 喜男(東北薬大・第二衛生)

*Plesiomonas shigelloides* はわが国において海外旅行者下痢症の主要な原因菌であるが, その病原性に関する研究はあまり進んではいない. 今回我々は, *P. shigelloides* の産生する シャペロンタンパク質に注目し解析を行った.

*P. shigelloides* の産生する64 kDaシャペロンタンパク質を分離・精製した. そのN末端アミノ酸配列とモチーフ領域を利用しPCRを行い, 64 kDaシャペロンタンパク質の遺伝子クローニングを行った. その結果, *P. shigelloides* の産生する64 kDaシャペロンタンパク質は548のアミノ酸残基からなり, その上流域には97アミノ酸残基よりなる10 kDa GroES様シャペロンタンパク質があった. また, 本64 kDaシャペロンタンパク質並びに10 kDa GroES様シャペロンタンパク質は*Escherichia coli*, *Shigella flexneri*, *Salmonella typhimurium*のGroEL並びにGroESとそれぞれ高い相同性を示した. また, *P. shigelloides* を37°C, 12 h培養後43°C, 1hの熱処理, 鉄イオン制限下培地での37°C, 12 h培養並びに高浸透圧培地での37°C, 12 h培養の各ストレス条件下において本64 kDa シャペロンタンパク質の産生が誘導されることをウエスタンブロットにより確認した.

GroELタンパク質は多くの病原細菌において検出されており, 病原性因子としての関与が報告されている. 現在, 本64 kDa シャペロンタンパク質の病原性因子としての可能性を検討しており併せて報告する.